



国道246号

山北バイパス



国土交通省関東地方整備局
横浜国道事務所

Route 246 Yamakita by-pass

山北バイパスの 向原地区とは？

国道246号山北町向原地区は、道路線形が悪く、幅員も狭小となっています。また、歩道も未整備であり、歩行者の通行に支障をきたすとともに、向原交差点で交通混雑が発生しています。

このため、JR御殿場線に沿って延長約1kmのバイパスを整備し、交通円滑化と生活環境の改善を図ります。

昭和61年度に事業に着手し、用地買収は平成22年度に完了しています。また、平成8年から工事に着手し、整備を進めています。



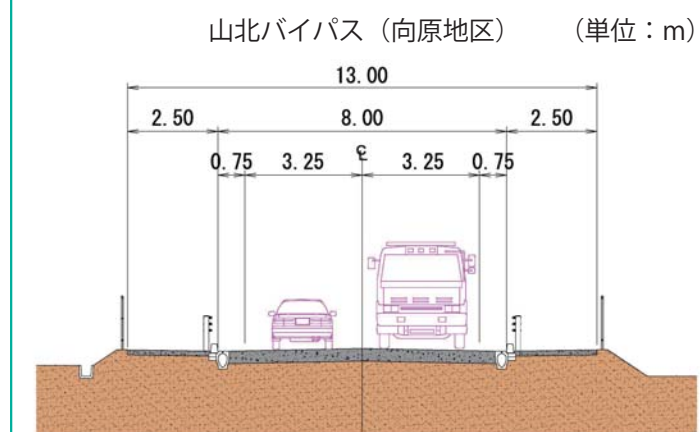
向原地区の計画概要

区 間	神奈川県足柄上郡山北町向原地先
計 画 延 長	L=1000m
幅 員	W=13.0m
構 造 規 格	第3種第2級
設 計 速 度	60km/h
車 線 数	2車線

経 緯

昭和50年	神奈川県から国へ移管
昭和61年	事業化
昭和63年	ルート説明
平成3年	地元住民への説明実施
平成7年	用地取得着手
平成8年	工事着手
平成22年	町道中里線開通

標準横断面図



線形不良



幅員狭小(歩行者通行状況)



Route 246 Yamakita by-pass

みんなの夢と笑顔があふれる道 山北バイパスとは？

国道246号は、東京都を起点に神奈川県中央部を横断し静岡県に至る首都圏と東海地方を結ぶ重要な幹線道路です。

静岡県境に近い山間部の酒匂川沿いの区間は道路の幅員が狭いうえ線形も悪く、特に山北町山北～同町川西間については連続雨量150mm以上で通行止めとなる通行規制区間でもありました。

このような交通状況を改善し、安全でより豊かな私たちの暮らしを支援するために計画された山北バイパスは、全体を4つの工区に分け、昭和51年度から工事に着手しました。

昭和55年度に開通した諸淵地区、昭和62年度までに開通した谷峨地区に続いて、平成15年3月に瀬戸地区が開通しました。現在は残る向原地区の整備を進めています。

とっても便利でスムーズに！ 山北バイパスができること…

1 安全で安心な道路に！

自然災害・異常気象などによる通行止めや、連続した急カーブと狭い道幅による危険を解消し、より安全でスムーズな走りを実現します。また、国道246号の瀬戸地区においては、バイパスの供用により、規制区間が解消されています。

2 地域にゆとりと豊かさを！

各方面への連絡・移動時間の短縮により、流通機能が向上し、地域の経済の活性化にも役立ちます。また交通アクセスが便利になり、レジャーや観光など地場産業にも発展をもたらします。

3 生活道路の機能を回復！

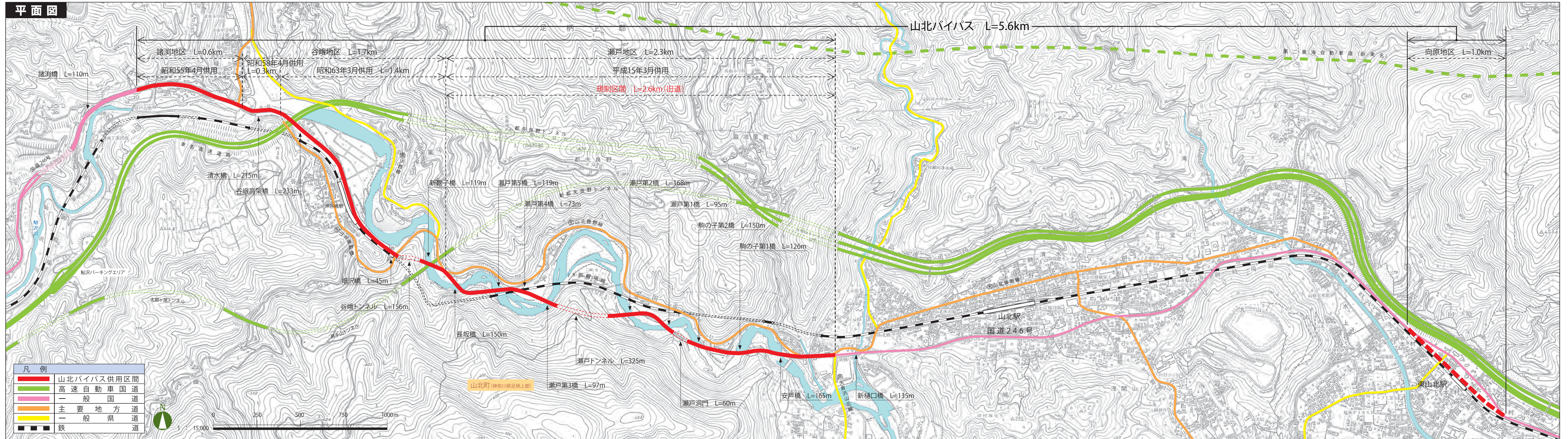
バイパスが整備されることにより、現道を通行する大型車の数が減り、生活道路としての機能が回復します。



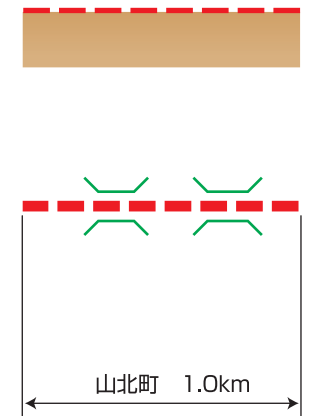
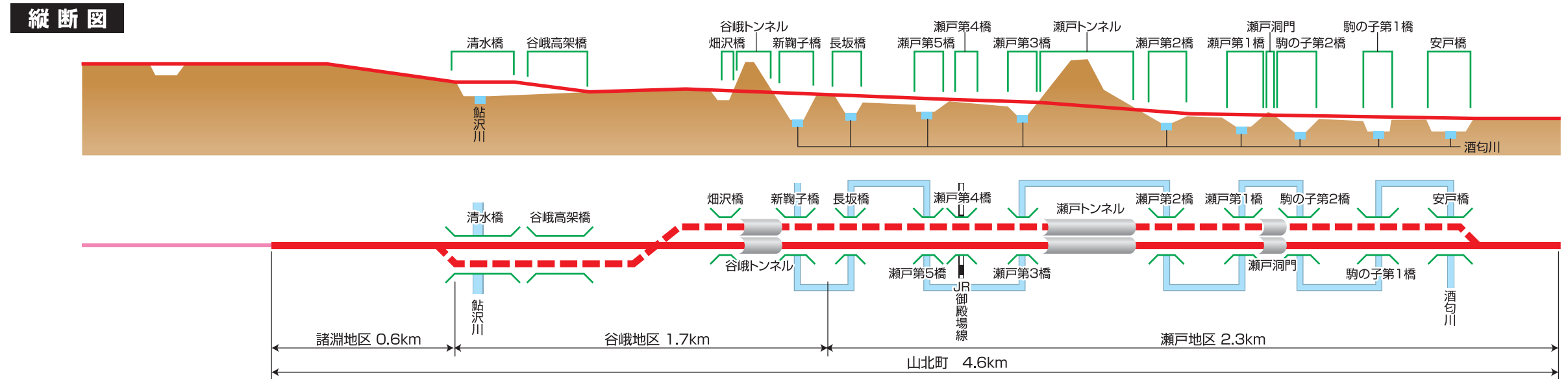
谷峨地区の
開通済区間
(JR谷峨駅付近)



江戸庶民に親しまれた「大山街道」は今、21世紀の「新しい道」へ。



この地図は、山北町長の承認を得て、同町発行の白地図1/10000 No.1を複製したものである。(承認番号 平23都第85号) 無断複写・複製・転載を禁じます。



国道246号山北バイパス改築工事のあらまし

山北バイパスは、総延長5.6kmのバイパスで、諸漕地区・谷峨地区・瀬戸地区・向原地区に分けられて県境側から整備を進めてきており、平成15年3月までに延長4.6kmが開通しています。

諸漕地区(0.6km)

昭和49年度までに、神奈川県による用地買収が完了。
昭和51年度より建設省が工事に着手、昭和55年4月に開通。

谷峨地区(1.7km)

昭和53年度より用地買収に着手。
昭和55年度より工事に着手、昭和63年3月に開通。

瀬戸地区(2.3km)

平成元年度より工事に着手し、平成15年3月に開通。

向原地区(1.0km)

平成8年度より工事に着手。

山北バイパスの建設は、地域住民の皆様のご理解とご協力で推進します。

このパンフレットについてのご質問・お問い合わせは

国土交通省横浜国道事務所

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町 13-2
調査課 TEL.045-316-3537